

子どもたちへの日本語教育 —内容重視の日本語教育の理論と実際—

東京学芸大学 齋藤ひろみ
shiroimi@u-gakugei.ac.jp

アウトライン

1. 内容重視の言語教育とは
 - ①「内容重視」の意味
 - ②どんな「内容」を？
 - ③どのような形態で？
2. 内容重視の日本語教育の実践事例
3. 事例から学ぶ
 - ①知的刺激のある探究活動
 - ②具体物や活動によって文脈化
 - ③活動参加による言語運用
 - ④子どもの発達段階と言語活動
 - ⑤教師によるスキャフォールディング(足場かけ)

1. 内容重視の言語教育の考え方

(Content-based Instruction 以下CBI)

①内容重視の意味

- ・内容を優先、日本語は学習のための言語的手段
- ・「内容」×「日本語」のクロスカリキュラム
教科内容×日本語
⇒「教科と日本語の統合教育」

※「日本語を、子どもたちの生活・学習文脈の中で
(あるいは関連付けて) 学ぶ」場を創ること
言語と内容(文脈)を切り離さない！！

②どのような「内容」を？

子どもの「ことば」の獲得・発達 ≠ 言語の知識・技能の獲得
「ことば」の獲得
・生活世界の広がり(環境との相互作用)
・認知的側面の発達(知識・概念の形成、思考力の発達)
※「ことば」の教育 = 全人的教育

CBIで取り上げる内容は？

- ・子どもの成長発達にとって意味をもつ内容
生活場面や学校の学習に関連する内容
- ・子どもが将来、社会参画し自己実現する上で価値をもつ内容
子どもの興味関心を掻き立てる、社会との関わりを促す内容
- ・子どもが社会事象を読み解き、判断するために必要な情報を入
手するスキルや処理するスキルが高まる内容
言語の文化的背景への理解や、その言語の利用によって世
界が広がるのが体験できる内容

③どのように？・・・CBIの多様な形態

- シェルター型
メインストリームの教科カリキュラムを少数派言語の子どもに
合わせて調整して実施する。言語面での不十分さを補助する
支援を行う。
- 補習型
メインストリームの教科カリキュラムに並行して実施する。
その授業に参加できるように、別の教室で言語面での補習を
行う。
- テーマ型
少数派の子どものためのプログラムを作成して実施する。
「昆虫」「海」「水」などのテーマを設定し、それを巡る課題を探
求する活動を組み合わせ、知識・概念とその活動に参加する
ための言語知識・技能を養う。

④CBIによる授業の効果

- 知的好奇心の刺激(動機付け)
- 内容に関する学習(本物のコミュニケーションを伴う)
- 文脈による理解と産出

⇒言語についての知識・技能、運用力の高まり
内容についての知識・概念の形成

内容(テーマの選び方)によって
「ことば」の教育 = 全人的教育
を実現できる

2. 実践事例 (横浜市立いちよう小学校)

- 対象児 9歳 中国籍、来日3ヶ月 2名
- 目標 ポップコーンが何からでき、どのように作るかを知り、実際につくることができる。
- ポップコーンの作り方を、順序を表すことばを使って説明し、友達に伝えるためのレシピを作ることができる。
- 第一時の授業案

体験

- ブラックボックスでクイズを行う。
- ★トウモロコシ、その粒、ポップコーンの実物、ブラックボックス、貼画カード
- ポップコーンを買ったことがあるが話しよう。

探究

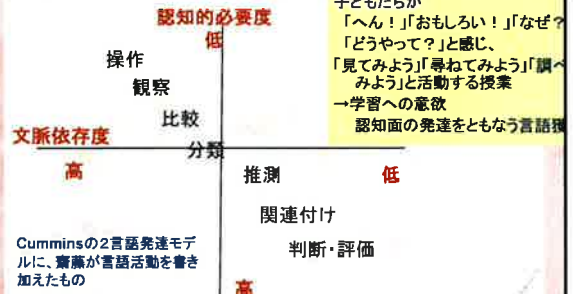
- ポップコーンづくりの道具や材料について、確認する。
- ★鍋や調味料などの実物とその名称カード、料理の説明に必要な動詞語彙カード
- カードポップコーン作りの写真を並べ替えながら、作り方を知る。
- ★ポップコーンの作業工程の写真4枚

発信

- ポップコーンの作り方を説明する。
- ★つなぎ言葉のカード
- ポップコーンのレシピを作る。
- レシピを書くワークシート

3. 事例から学ぶ・・・CBI実施のために

①知的刺激のある探究活動



②具体物や活動による文脈化

- 触ってみる → 感触を表現する
- 実物を見る → 物の名称を知る
- 絵を並べ替える → 作り方を考え、伝える
- 実際に作る/観察する → 変化を捉え表現する
- 食べる → 気持ちを伝え共有する

具体物や活動によって、ことばは文脈化され、ことばの意味も内容の理解も促される。

③言語運用の場として活動を設計する

- 言語運用について学ぶ場とするために 意識的に組み込む事項
 - どのような語彙・表現
 - どのような機能で
 - どこで、だれと、何について
 - 文と文をどうつないで
 - どのようなテキストで
- 学習ストラテジーを身につける場とするために 活動の中に組み入れる学び方
 - メモをすること
 - 黒板などに示された言語材料を利用すること
 - 知っている人を利用すること など

④学習活動の設計のために必要な知識 <成長・発達の段階に相応しい学び方>

- 中学生
言語の分析力が高まり既存の知識を体系化し、それを活用してことばを学習
- 小学校高学年
言語の分析やコントロールの力も発達しつつあり、語彙・文法を取り上げて学習することも可能
- 小学校低学年
直接的な学習体験や仲間とのコミュニケーションを通して、ことばをシャワーのように浴びて自然に獲得

<教師によるスキヤフォールディング> (足場かけ)

英語学習者に対する 教育的スキヤフォールディングのタイプ (Walqio2007)

- Modelling
- Bridging
- Contextualising
- Schema building
- Re-presenting text
- Developing metacognition

4. 日本におけるJSL児童生徒を対象とした CBIの実施状況

- 中国帰国者定着促進センター
「日本語と教科の統合教育」(算数・社会・理科)
- お茶の水女子大学
「母語・日本語・教科相互発達モデル」
- 文部科学省開発
「学校教育におけるJSLカリキュラム」
 - ・実践支援事業: 12自治体
福島市、大阪府・大阪市、兵庫県(芦屋市・姫路市他)北九州市、久留米市、福島市、愛知県東浦町
 - ・学校独自の取り組み: いちよう小学校、葛西中学校
 - ・学校教員の任意組織の取り組み: 池袋小、大久保小、神南小
- アメリカンスクールASIJ(日本語ネイティブの子どもを対象)
国語科とのクロスカリキュラム

①中国帰国者定着促進センター 「日本語と教科の統合教育」

- ねらい
教科活動に**体験的に参加**することで、**日本の教科学習に親しみ**、**基礎的知識・技能を身につける**。日本語で思考する力を養うことを目指す。
- 内容選択とカリキュラム構成の考え方
既習の教科学習内容から未習の内容へ
領域ごとに教科の基礎・基本の内容を選択各教科の典型的な学び方を経験させる
- 授業の展開
動機付け → 用語の導入 → 体験型の活動
→ 発表・報告 → まとめ
- 教室活動の特徴
hands-on(具体物、作業、体験を重視)

②お茶の水女子大 「教科・母語・日本語相互育成学習モデル」

- 母語で**教科の知識概念**を形成し、それを日本語で理解可能とし、**母語・日本語・教科学習**を相互育成する
- 認知面、言語面、上位面、社会面、文化面のニーズにあった内容
学校のカリキュラムに先行して
- 母語による先行学習 → 日本語による先行学習
→ 学校での本番の学習
- 教師は母語話者と日本語話者
内容理解・知識・概念形成は母語で

③文部科学省「JSLカリキュラム」

- 学校における**学習活動に日本語で参加**する力(学ぶ力)を育むことをねらいとする。
- 学習内容 子どもたちの実態に即して
トピック型: 子どもの興味関心等に基づき
教科志向型: **教科内容・スキル**を子どものレディネスに応じて選択して
- 授業の枠組み
トピック型: **体験 — 探求 — 発信**
教科志向型: **各教科の典型的な授業展開**
- 学習を組み立てるための道具
AU(活動を単位化したもの)とそれに参加するための日本語表現の組み合わせ

1 コミュニケーション場面と学習項目

子どもたちは、どのような場面で、どのような日本語を使って生活しているでしょうか。

日本の子どもたちの生活を想像しながら、日本語でのコミュニケーションを楽しめるような場面設定、学習言語項目の設定をしましょう。

話し合い1 「子どもたちの生活と言語項目」 ワークシート1

- ①さくら小学校の写真を見て、子どもたちが何を話しているのか、想像して、会話を吹き出しに書いてください。写真3枚(登校場面、給食の場面、授業の場面)の中から、1枚を選んでください。
- ②吹き出しに書き出した会話文の中で、日本語を学ぶ香港の子どもたちに、学ばせたい表現に下線を引いてください。子どもの日本語のレベルに応じて、必要であれば、その表現を簡略化したり、整理したりしてください。

2 テーマをめぐる多様な言語活動

子どもたちは、日本語を使って、何を知り、気づき、考え、創りだすことができるでしょうか。

子どもたちの知的な興味関心を刺激するテーマを設定し、そのテーマについて「見て・聞いて・やっ、調べて、作って」探究する活動を、日本語で行えるように、活動を組み立てましょう。

話し合い2 「テーマをめぐって日本語で参加する活動を考える」 ワークシート2

テーマ「スポーツ」

- ①授業に参加する子どもたち(教える対象)を決めてください。
- A: 小学2年生(学習歴1年・初級前期) B: 小学5年生(学習歴3年・初級中期)
C: 中学2年生(学習歴3年・初級後期)
- ②テーマに関する「探究課題」を具体的に決定してください。
- 例) A: サッカーのポジションとその役割を知る
B: 小学生に人気のあるスポーツが何かを調べる
C: スポーツの経済効果について知る
- ③「探究課題」を達成するためのタスク活動を考えてください。
- 例) ・グループでサッカーのポジションを話し合って決める。
・クラスの友達に好きなスポーツについてアンケートを行い、結果を表やグラフに表して、人気があるスポーツについて紹介する。
・海外から北京オリンピック参観に来た人の数、売り出されたグッズの数と売上等のグラフを見て、どのぐらいの経済効果があったかを読み取り、それをポスターにして発表する。

④その活動を通して、どのような日本語の表現を学ぶことができるか、考えてください。

A:ぼくは(ポジション)をしたいです/私は～になりたいです。

B:好きなスポーツは何ですか。/一番人気があるスポーツは()です。

C:海外から参観に来た人は、全体で()人です。(日本から)は()人来ました。

北京オリンピックは、()元の経済的効果がありました。

タスクの設計方法

1)子どもたちの生活や学習の場面を想像してください。日本語を使ってどんなコミュニケーション(読み書きも含む)活動をしているか考え、場面を特定します。

2)その場面で、どんな課題が課されるのか、あるいはどんな課題を遂行する力が役立つのかを考えます。

3)その課題を、タスク活動として構成します。

- タスクの要素
- ・自分が知らない情報を得なければならない
 - ・情報を得るために他者とコミュニケーションをしなければならない
 - ・得た情報を元に、何かを完成したり解決したりしなければならない
 - ・その結果を、何らかの形で残さなければならない
(できるだけ、その結果を他者に伝える)

資料1 (財)国際文化フォーラム『写真教材 日本の小学校生活』



1 登校の場面



2 給食の場面



3 授業の場面

資料2 授業案

1 低年齢対象の場面中心の日本語の授業

授業名「楽しいひなまつり」

活動のタイプ：場面を設定し、タスクを遂行するプロセスで日本語を習得させる

①対象の子ども 年齢：小学校中学年ぐらまで、

日本語の力：簡単な自己紹介ができ、年齢、家族、食べ物や動物の好き嫌いは答えられる。文字の読み書きは、ひらがながようやく読めるようになった程度。

②目標：ひな壇に、「○を、○段目に置いてください。」という指示に従って雛人形を並べることができる。可能であれば、友達に、お雛様をどこに置けばいいか伝えることができる。

※タスク：ひな壇に、雛人形を指示通りに並べる

※言語項目：～を～においてください ○段目 お雛様

③学習活動：

導入	①雛飾りの写真を見て、「おひなさま」であることを知る（言う） 雛人形のそれぞれの名称については、簡略化して紹介する。 ②教師が、折り紙で作った雛人形を、「お雛様は1段目、お内裏様は2段目…」と言いながら、雛壇（絵）に並べる。
展開 （練習）	③教師の「お雛様を（1段目）に置いてください。」という指示に従い、指名された子どもが、手渡されたひな人形を、ひな壇に置く。 何度目かから、指示は教師と子どもたちが一緒に出す（何番目に置くかは、教師が示す）。 ④子どもが指示を出し、他の子どもが雛人形をひな壇に置く。
まとめ	⑤再度教師が指示を出し、子どもたちが雛人形を雛壇に並べ、糊付けして、雛飾りを完成する。

教材：雛祭りの写真など

折り紙などの雛人形と雛壇の絵（板書でも可）

雛人形名のカード（文字が読める子どもたちが対象の場合）

※できれば、この時間の前に、折り紙で雛人形作りをしておき、それを使ってこの活動を行う。
最終的には、グループでそれぞれが作った雛人形を飾って、お雛飾りを完成させる。

2 小学校中学年以上の子どもを対象にしたテーマ型の日本語の授業

授業名「音楽会」

活動のタイプ：テーマ型の日本語教育

1. 対象 年齢：小学校中学年～小学校高学年

日本語の力：自分のことについて簡単な質問に答えられる。

文字に関しては、ひらがな・カタカナの読み書きができる。

2. 目標：日中の小学校の音楽会について知り、言語背景の異なる友達との音楽を通じた交流をイメージできる。また、可能表現を利用して、歌や楽器ができる人を探し、音楽会の演奏を頼むことができる。

※タスク：友達に、演奏や仮称についてできるかどうか尋ね、音楽会の演目の担当を決める。

※言語項目：音楽会、(日本語の) うた、ピアノ、ギター、バイオリン

～が できる／できない、～が うたえる／うたえない

3. 授業の展開 ※4技能の総合的な学習活動になるようにする

	子どもたちの活動と指導上の留意点 (○)	教材
導入	<p>① コミュニケーション場面の紹介</p> <p>日本の小学校の音楽会の写真を見ながら、どんな演目があるのか、自分の小学校の場合はどうか話し合う。 ○母語で話し合わせてもよい。</p> <p>※新出語彙・文型の導入 「うた、ピアノ、ギター、バイオリン」 ～が できる／できない、～が うたえる／うたえない</p>	<p>楽器等の 絵カード</p>
展開	<p>②基本練習</p> <p>単語：<u>日本語のうた、ピアノ、ギター、バイオリン</u> ○練習の手順：聞いて判別 → リピート → 読む</p> <p>文型：<u>ピアノができる／できない、うたえる／うたえない</u> ○練習の手順：聞いて判別 → リピート → 読む</p> <p>Q&A</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A：～さん、ピアノが できますか。(うたえますか) B：はい、できます／いいえ、できません。 (うたえます／うたえません)</p> </div> <p>○練習の手順：モデルを見る → リピート練習 → ペアで練習</p> <p>③応用練習</p> <p>タスク：クラスメイトの特技を聞いて、歌や器楽演奏を依頼し、演目の担当者を決定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A：Bさん、ピアノが できますか。 B～E：はい、できます ／いいえ、できません。 A：じゃ、音楽会でひいてください。 B～E：いいですよ。 A：おねがいします。</p> </div> <p>1) 会話の練習 ○活動のさせ方 モデルの提示 → リピート練習</p> <p>2) タスクの実施 Aはシートに演目を書き入れる。B～Eはできる楽器に○をつける。 グループ内でシートに沿って上の会話を行い、Aは各演目を行う人を決める。</p> <p>3) 結果報告 Aが音楽会の演目の担当者を発表する。 <u>～さんが、日本語のうたをうたいます／ひきます。</u></p>	<p>絵カード 語彙カード 文型カード</p> <p>模造紙に 書いた会 話</p> <p>タスクシ ート2種 類</p>
まとめ	<p>④まとめ ③のタスクの結果をもとに、以下の文を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>～さんは、～が できます／日本語のうたが うたえます。 音楽会で、～をひきます／うたいます。</p> </div>	

②Chamot, A. U. & O' Malley, J. M.(1994) (Cognitive Academic language learning Approach)

学習言語能力とは、学習場面において、言語を利用して次のことができる力

情報を得る、情報を提供する、比較する、順序だてて考える、分類する、分析する、想像する、説明する、問題を解決する、統合する、評価する

⇒内容（教科）の学習において、上のような活動をするために言語の知識・技能が統合されて、学習言語能力として働く。

<参考文献>

- ・岡崎眸(2002)「内容重視の日本語教育」細川英雄編『ことばと文化を結ぶ日本語教育』凡人者 pp.49-66
- ・川上郁雄(2002)「年少者のための日本語教育」細川英雄編『ことばと文化を結ぶ日本語教育』凡人者
- ・小林春美・佐々木正人編(1997)『子どもたちの言語獲得』大修館書店
- ・佐藤郡衛・齋藤ひろみ・高木光太郎(2005)『小学校 SLカリキュラム「解説」』スリーエーネットワーク
(シリーズ本になっており、他に JSL 国語科、JSL 算数科、JSL 社会科、JSL 理科があります)
- ・波多野誼余夫編(1980)『自己学習能力を育てる一学校の新しい役割』東京大学出版会
- ・パトラー後藤裕子(2003)『多言語社会の言語文教育』くろしお出版
- ・中島和子 (1998)『バイリンガル教育の方法』アルク
- ・Snow & Brinton (1997) *The Content-Based Classroom*, Addison Wesley Longman,
- ・Cummins, J. & Swain, M. (1986) *Bilingualism in Education*, LONGMAN
- ・Chamot, A. U. & O'Malley, J. M. (1994) *THE CALLA HANDBOOK Implementing the Cognitive Academic Language Learning Approach*. ADDISON-WESLEY PUBLISHING COMPANY
- ・Met, M. (1994) Teaching content through a second language. In F. Genesee (Ed.) *Educating second language children*. Cambridge University

<年少者対象の内容重視型の日本語教育実践（研究）例の掲載されている書籍・HP>

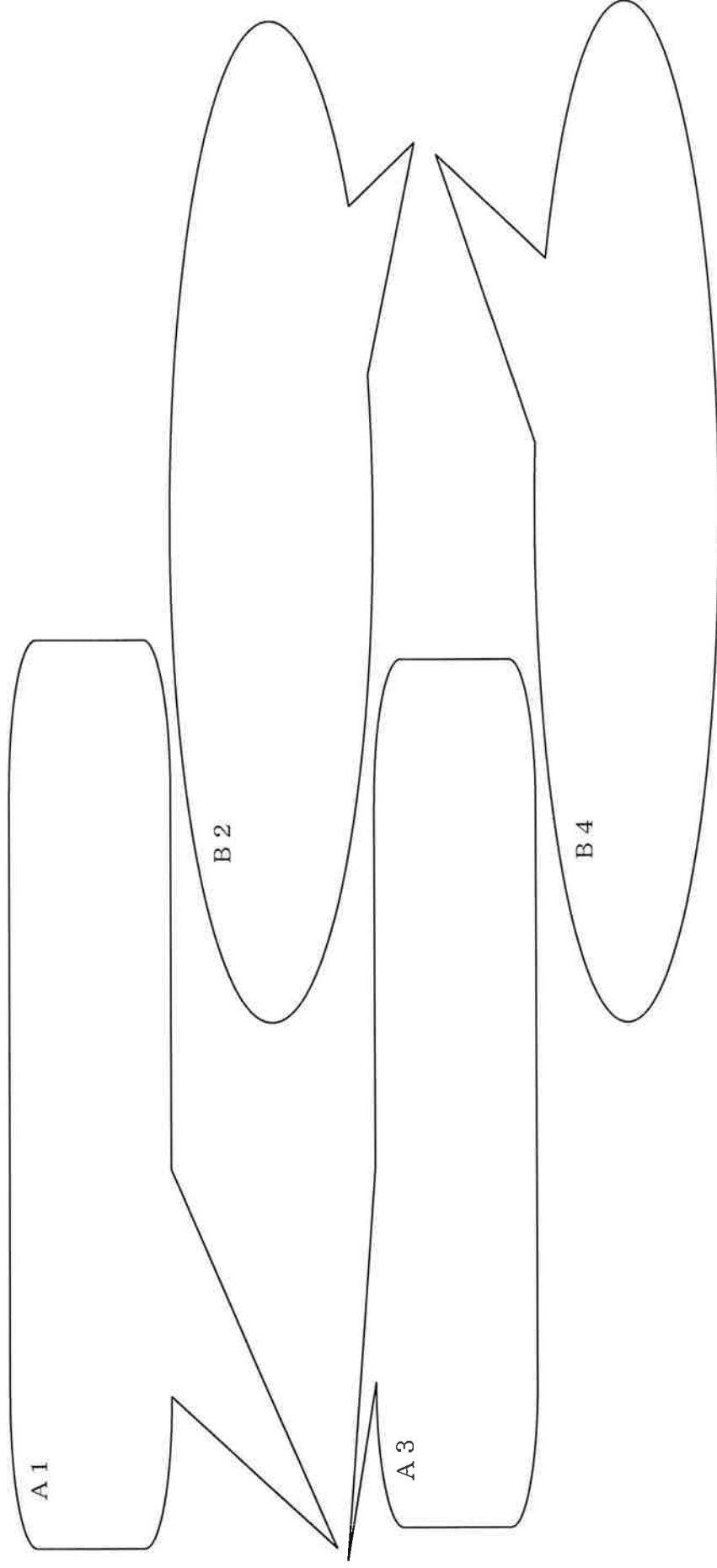
- ・お茶の水女子大学日本言語文化学会研究会編集 (2005)『共生時代を生きる日本語教育』凡人者・・・お茶の水女子大の実践研究が複数掲載されている。
- ・川上郁雄編著 (2006)『「移動する子どもたち」地』『日本語教育』明石書店・・・早稲田大学の学生の実践研究が複数掲載されている。
- ・中国帰国者定着促進センターHP <http://www.kikokusha-center.or.jp/> 実践報告の掲載されているセンター紀要のダウンロードが可能

<もし、参考になるようでしたらどうぞ 拙著>

- ・齋藤ひろみ (1998)「内容重視の日本語教育の試み - 小学校中高学年の子どもクラスにおける実践報告」『中国帰国者定着促進センター紀要』6号
- ・齋藤ひろみ (1999)「教科と日本語の統合教育の可能性 - 内容重視のアプローチを年少者日本語教育へどのように応用するか -」『中国帰国者定着促進センター紀要』7号
- ・齋藤ひろみ(2001)「「学習」を支える日本語能力の育成に向けて」『世界をひらく教育』vol.23 創友社
- ・齋藤ひろみ (2007)「学習参加のためのことばの力を育む - 文部科学省開発「JSLカリキュラム」の方法論とその実践事例から」『「移動する子どもたち」の言語教育 - ESLとJSLの教育実践から』年少者日本語教育学を考える会・年少者言語教育国際研究会実行委員会
- ・石井恵理子・齋藤ひろみ・門倉正美・川上郁雄 (2007)「年少者日本語教育における「JSLカリキュラム」とリテラシー教育」2007年度日本語教育学会春季大会予稿集
- ・齋藤ひろみ (2008)「日本国内における外国人児童生徒教育の現状と課題」
「インタビュー 多言語多文化化する学校」
『多言語・多文化社会へのまなざし—新たな共生への視点と教育—』白帝社
- ・川上郁雄・石井恵理子・池上摩希子・齋藤ひろみ・野山広(2009)『「移動する子どもたち」のことばの教育を創造する—ESL教育とJSL教育の共振—』ココ出版
- ・齋藤ひろみ・佐藤郡衛(2009)『文化間移動をする子どもたちの学び—教育コミュニティの創造にむけて』ひつじ書房

話し合い1 「子どもたちの生活と言語項目」 ワークシート1

- ① さくら小学校の写真を見て、子どもたちが何を話しているのか、想像して、会話を、吹き出しに書いてください。
写真は、3枚の中から1枚選んで、考えてください。 写真1：登校の場面 写真2：給食の場面 写真3：授業の場面



- ② 吹き出しに書き出した会話文の中で、香港で日本語を学ぶ子どもたちに、学ばせたい表現に下線を引いてください。また、子どもの日本語のレベルに応じて、必要であればその表現を簡略化してください。

話し合い2 「テーマをめぐって日本語で行う活動を考える」 ワークシート2

①授業に参加する子どもたち(教える対象)は? () ★対象の子どもを次のいずれかに設定して考えてください。

A: 小学2年生 学習歴1年・初級前期 B: 小学5年生 学習歴3年・初級中期 C: 中学2年生 学習歴3年・初級後期

②探究課題(この学習を通して、学んでほしい内容)

③タスク活動 : 探究課題を達成するために課す具体的な学習活動 (観察、実践、作業、体験、調査等の探求活動が期待される)	④この活動を通して学ぶ日本語の表現: 語彙や文型、表現 等(どのような会話や文として利用させるか示す)

話し合い2 「テーマをめぐって日本語で行う活動を考える」 例

- ①授業に参加する子どもたち(教える対象) 小学2年生・初級前期の児童
 ②探究課題 どのようなものが磁石につくか気づく

③タスク活動：探究課題を達成するために課す具体的な学習活動 (観察、実践、作業、体験、調査等の探求活動が期待される)	④この活動を通して学ぶ日本語の表現・語彙や文型、表現等
<p>1) 磁石を見て、なんというか知る。 磁石を見たことがあるか、簡単な日本語でやりとりする。</p> <p>2) 身の回りのものが磁石につくかどうか、予測する。(ワークシート) 身の回りのもの：クリップ、はさみ、空き缶、折り紙、画用紙、木のできたものさし、鉛筆</p> <p>3) 磁石につくかどうか、実験する。(ワークシート) ワークシートへの記入の仕方について、例を見て理解する</p> <p>4) 実験の結果を発表する。</p> <p>5) 磁石につくものとかからないものの違いについて、話し合う。</p> <p>6) わかったことをワークシートにまとめる。</p>	<p>1) 語彙：じしゃく 表現 これはいしゃくです。</p> <p>2) 語彙：つきまます／つきまません、身の回りの物の名称 表現：T () は、磁石につきますか。 S つきまます／つきまません。</p> <p>3) 語彙：実験</p> <p>4) 語彙：つきまました／つきまませんでした 表現：T () は、磁石につきましたか。 S はい、つきまました／いいえ、つきまませんでした。</p> <p>5) 語彙：木、紙、鉄 表現：T ものさしと鉛筆は木です。折り紙と画用紙は？クリップとハサミは？どんなものが磁石につきますか？ S てつがいしゃくにつきます。 T てつでできているものがいしゃくにつきますね。</p> <p>6) 表現：じしゃくのじっけんをしました。() と () と () がじしゃくにつきます。() でできているものがじしゃくにつきます。(ワークシート記入)</p>

